

みんなくりポジトリ

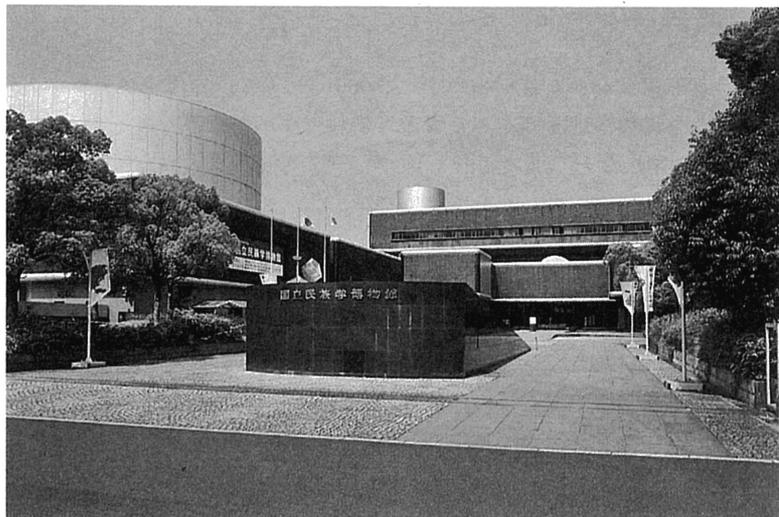
国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

写真のある美術館・博物館・資料館：
国立民族学博物館

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 久保, 正敏 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5650

国立民族学博物館

<http://www.minpaku.ac.jp/>



館の紹介

国立民族学博物館（略称：民博＝みんぱく）は、大学共同利用機関の一つとして1974年6月にExpo70の跡地に設置され、1977年11月に展示場が一般公開されました。文化人類学・民族学と関連諸分野に関する、研究センター、資料・情報センター、そして市民向けに研究成果を還元する博物館機能も合わせ持つユニークな機関です。法人化の流れの中で、2004年に人文系の大学共同利用機関（歴博、国文研、日文研、地球研）とともに大学共同利用機関法人「人間文化研究機構」を構成する一機関に再編されました。

民博の名前は博物館ですが、文化庁ではなく文科省研究振興局学術機関課の所管下にあり、学芸員を置かない代わりに、文化人類学・民族学や関連諸分野を専門とする約60名の教員を擁しています。

館と写真とのつながり

民博は、文献図書資料の他、教員が世界各地のフィールド調査途上で収集した、標本資料、映像音響資料も多数収蔵し、総資料点数はこの分野で屈指です。映像資料には、民博の教員だけでなく、研究者や学術調査隊から寄贈された、プリントやフィルムの写真資料が多数含まれます。これらは、写真1枚に力を込めた報道写真や芸術写真とはやや趣が異なり、研究者の学術的視点によって調査地の情景や文化を記述した「民族誌写真」であり、全体の通覧、他地域の写真との比較、文書記録との組み合わせによって、各地域の生態・技術・文化の相関関係を見出すのに有用なものです。

民博は、これら写真資料の保存と活用のバランスを図る工夫を重ねてきました。古写真やビネガー・シンドロームの始まったフィルムなど劣化資料の保存手法、保存用の複製を作る際の著作権者との調整、などの課題があります。一方、活用の面では、デジタル化してネット公開を進める際に個人情報・肖像権・現地文化の尊重など、文化を記録した写真資料の倫理的配慮が重要です。特に1980年代以降、文化人類学・民族学が従来無自覚に進めてきた現地からの情報収奪に対する反省の機運が高まり、現地への資料・情報の還元、現地との共同作業の重要性が説かれるようになってからは一層、被写体の権利やキャプションの表現について慎重な扱いが求められています。

民博は非営利の公的学術機関なので、学術調査隊、個人やご遺族から写真を寄贈される場合は、できるだけ著作権も譲渡いただくことを原則に資料整備と公開を進めています。権利処理未了のため民博内での学術目的

閲覧に止めているものも含め、『週刊朝日』で1974～1975年に連載された「我が家のこの一枚」への応募写真約3,000点、1930年代にアメリカのオセアニア方面学術調査団に同行した写真家・朝枝利男氏のコレクション約4,000点、松尾三憲氏が大正年間に収集した絵葉書コレクション約170点、1958年西北ネパール学術探検隊写真約3,600点、1957～1960年の東南アジア稲作民族文化総合調査団写真約4,300点、1961～1967年の京都大学アフリカ学術調査隊写真約17,000点、1970～1980年代のタイを中心とする田辺繁治名誉教授フィールド写真約10,000点、1980～2004年の小山修三名誉教授オーストラリア・アボリジニ研究フィールド写真約8,000点、など多岐にわたる資料があります。

当館自慢の一品

これら写真コレクションの中で、35,000点に及ぶ、初代館長梅棹忠夫の写真コレクションは、1940年～1986年にわたり世界各地を調査した貴重な資料です。ちなみに梅棹忠夫は、岩波写真文庫から『アフガニスタンの旅』（1956年）など写真集3冊を刊行、1973年に日本写真家協会に入会、それが縁で1982年から2010年にかけて国内各地で写真展「民族学者 梅棹忠夫の眼」を開催するなど、芸術性も重視した写真家としても知られています。各地域の人びと、特に子どもたちの写真に味わいがあります。



1958年、ラオス王国（当時）ターケーにて。第一次大阪市立大学東南アジア学術調査隊（1957年11月～1958年4月）の隊長として調査。



1957年、カンボジア王国トンレサップ湖上のクメール族。第一次大阪市立大学東南アジア学術調査隊（1957年11月～1958年4月）の隊長として調査。



1961年、ネパール王国カカニ・ヒル西方にて。背景の山はガネッシュ山群。第二次大阪市立大学東南アジア学術調査隊（1961年12月～1962年2月）の隊員として調査。

施設メモ

- ▶ 施設名 国立民族学博物館（こくりつみんぞくがくはくぶつかん）
 - ▶ 所在地 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
 - ▶ アクセス
 - ・千里中央方面からお越しの場合
大阪モノレール 万博記念公園駅<<本線>>下車徒歩約15分（自然文化園<<有料区域>>の入園料が必要だが、券売機で民博観覧券を購入した場合は不要）。または、大阪モノレール公園東口駅<<彩都線>>下車徒歩約15分。
 - ・JR 茨木駅・阪急茨木市駅方面（経由）からお越しの場合
近鉄バス<<阪大病院、美穂が丘>>24・25系統 日本庭園前下車徒歩約15分（自然文化園<<有料区域>>を経ずに来館可能）。
- 詳しくは <http://www.minpaku.ac.jp/museum/information/access>
- ▶ 開館時間 10:00～17:00（入館は16:30まで）
 - ▶ 休館日 毎週水曜日（水曜日が祝日の場合は翌日が休館日）、および年末年始（12月28日～1月4日）
 - ▶ 観覧料 本館展示場観覧料

区分	個人	団体(20名以上)
一般	420円	350円(1人)
高校・大学生	250円	200円(1人)
小・中学生	110円	90円(1人)

表の金額は本館展示の観覧料金。特別展の観覧料金はその都度、別に定めます。